

キリストの有機的なからだとしての召会を建造するために、

天然の能力と命の円熟の復活した能力は相対する

聖書：列王上 3:1. 11:1-8. ヨシユア 9:14. I コリント 1:24, 30.

イザヤ 45:15. 37:31. マタイ 6:6

- I. ソロモンは、知恵の人また理解力の人となりました（歴代下 1:10. 参照、コロサイ 2:2 後半-3）。しかしながら、彼は多くの異教の女をめとり、彼女たちの偶像を拝み、民が偶像を拝むための場所を建てたので、神が与えてくださった知恵と神が与えてくださった理解力とを失いました。彼はとても愚かになり、彼の王国に損害をもたらしました（列王上 3:1. 11:1-8）：
- A. ソロモンの父ダビデは、神の心になかった人ですが、情欲にふけるという、この同じような粗野で醜悪な罪で失敗しました（サムエル下第 11 章）。このサタン的な誘惑におけるソロモンの失敗は、彼の父の失敗よりはるかに大きかったのです。彼の墮落は、多くの外国の妻を愛することによって情欲にふけたことにあり（列王上 11:1-3）、彼に二度現れた神を捨てたことにあり（9 節後半）、彼が愛した外国の女たちによって誘惑されることを通して異邦人の偶像を拝んだことにありました（4-8 節）。
- B. ソロモンには、七百人の妻と三百人のそばめがいました（列王上 11:3）。彼女たちの願望を満たすために、彼は高き所を築きました。彼の妻たちは、「彼の心を転じさせて他の神々に従わせ」ました（4 節）。「ソロモンはシドン人の女神アシタロテと、アンモン人の忌むべきものミルコムに従って行った」（5 節）。
- C. 「ソロモンはモアブの忌むべきものケモシのためにエルサレムの前にある山に、またアンモンの子たちの忌むべきものモレクのために高き所を築いた」——列王上 11:7：
1. ソロモンの統治の間、宮がエルサレムで建造され、主の栄光がその宮を満たしました。宮が建造された時代は、イスラエルの子たちの歴史の黄金時代でした—— 8:10-11。
 2. 唯一の場所であるエルサレムは一を表徴しますが、高き所は分裂を表徴します。あらゆる種類の邪悪で忌むべきものが、高き所を立てることと関係があったのと同じように、新約の用語において、あらゆる種類の邪悪は分裂と関係があります—— I コリント 1:10 とフットノート 3。
 3. 注目すべき事は、神の願いにしたがって、神の民の一の立場の上に宮を建てた者であるソロモンが、率先して再び高き所を築いたということです——列王上 11:6-8。
- D. これは彼の子孫に、彼らの王国の九割以上を失わせ、神の選びの民に、何世代にもわたって彼らの間で分裂と混乱を被らせました。最終的に、彼らは神の与えられた地を失い、偶像礼拝の外国の地で捕虜となりました。

- E. ソロモンの失敗のゆえに、イスラエルの国は今も苦難を受けています。これはわたしたちにとって、何という警告と警鐘になるべきでしょう！ わたしたちは注意しなければなりません。情欲にふけることでの小さな失敗でさえ、召会生活を破壊し、召会生活の輝かしい面を殺し得るのです。
- F. ですから、わたしたちは最も小さな事においてでさえ、注意深くなければなりません。わたしたちはあらゆる事において、霊にしたがって歩くべきです(ローマ 8:4. 参照、ゼカリヤ 4:8-10)。神の民は、彼と共に生き、常に彼に信頼し、彼と一であるべきです(ヨシュア 9:14. II コリント 6:1 前半. I コリント 3:9. マタイ 1:23)。
- G. ソロモンの逝くことは、悲観的な失望の中でありました(列王上 11:40-43)。彼の栄華は草の花のように落ち(マタイ 6:29. I ペテロ 1:24)、彼の華やかな一生は、彼が宣べ伝えたように「空の空」となりました(伝 1:2)。

II. わたしたちはソロモンの失敗を、霊的な命の光の下で見る必要があります：

- A. ソロモンは賢い人でしたが、霊的な人ではなく、有能な人でしたが、命の人ではありませんでした。神の与えられた賜物を通して、神の与えられた良き地に対するソロモンの享受は最高水準に達しました。しかしながら、彼は霊的な命の円熟の度量が小さく、制限されずに情欲にふけたために、神のエコノミーにおける良き地の享受から断ち切られました——I コリント 2:14-15. 3:1, 3。
- B. 神の与えられたソロモンの知恵は、彼の時代に彼をこの世の大いなる者とししました。しかしながら、彼の知恵は完全に物質の領域にあり、何の霊的な要素もありませんでした。彼の知恵は、来たるべき真の知恵の影であり、パウロの知恵とは全く異なっていました——1:24, 30。
- C. パウロの知恵は霊的な知恵であり、キリストがわたしたちの心の中にご自身のホームを造ること(エペソ 3:17)、わたしたちが霊にしたがって歩き、存在すること(ローマ 8:4)、二つ霊(神聖な霊と人の霊)が共にミングリングされて一つ霊となることに関するものでした(16 節. I コリント 6:17)。
- D. 神のエコノミーの奥義は、おもにパウロに明らかにされました(コロサイ 2:2. エペソ 3:3-5, 9-10)。今日、わたしたちは宇宙における最高の知恵を知ろうとするなら、パウロの手紙における真理の結晶の中へと入り込まなければなりません。真の知恵は神であり、神はキリストの中に具体化されており、キリストはわたしたちの知恵となってわたしたちの中におり、わたしたちを神と一にならせ、わたしたちを神格においてではなく、命と性質において神とならせています。こうして、わたしたちは三一の神の傑作、彼の詩となって、彼の無限の知恵と神聖な設計を展覧するのです(I コリント 1:24, 30. エペソ 2:10. 3:9-11)。

- ## III. ソロモンは、天然の能力に満ちている人でしたが、命の人ではありませんでした。彼の知恵は賜物であって、命の度量ではありませんでした。彼が生涯に成就した事は、彼が神の与えられた知恵の賜物から来る能力を持っていたことを証明したのであって、命の円熟の能力を現したのではありませんでした——ヘブル 6:1. コロサイ

1:28-29. ピリピ 3:12-15 :

- A. わたしたちは、天然の能力と、死と復活を経過した能力との違いを見る必要があります。わたしたちが認識する必要のあることは、神の事柄において、わたしたちの天然の存在と天然の能力が、無能であり、不十分であるということです——使徒 7:22. 出 3:2-3, 14-15. I コリント 2:14. ピリピ 3:3-9. II コリント 3:5-6.
- B. わたしたちは、神の事柄においてわたしたちの天然の存在に信頼すべきではありません。反対に、わたしたちは自分の天然の存在を拒絶し、あらゆる事においてわたしたちの霊を活用して、キリストのからだを有機的に建造することを学ばなければなりません——ピリピ 3:3. ローマ 8:4. I テモテ 4:7.
- C. 主の回復の中では、わたしたちの天然の存在に地位はありません。主の回復の諸召会は、キリストの生けるからだの一部として、天然的なあらゆるものを自然に拒絶します——I コリント 12:12-13.
- D. 召会の建造において、わたしたちの中のあらゆる天然のものは砕かれなければならない、そうしてはじめてわたしたちは共に結合されることができます。わたしたちの天然の存在が砕かれてはじめて、わたしたちは建造されることができます——詩歌 603 番、6 節と 7 節.
- E. 天然の能力は、自己中心的であり、わたしたちを高ぶらせ、その結果、誇り、自らに栄光を帰します。復活した能力は、高ぶることがなく、自らを誇ることもありません——参照、コロサイ 1:17 後半, 18 後半. ピリピ 3:3. II コリント 12:9.
- F. 天然の能力は、利己的であり、その計画や手段はすべて自己のためであって、神のみこころを少しも顧みません。復活した能力は、神のみこころのためです。それは砕かれており、自己のためでなく、自己の要素がありません——参照、マタイ 16:24.
- G. 天然の能力は、自分に頼り、自分に信頼し、自分自身で行動し、神にではなく自分に依存するようにさせます。復活した能力は、真に能力と才能があっても、神に信頼し、自己にしたがってはあえて行動しません。復活した能力は、聖霊によって制御されており、自分の願望にしたがってはあえて行動しません——参照、II コリント 1:8-9. 4:6-7. 12:7-9.
- H. 天然の能力は、神聖な要素を持っていません。それは、それ自身の栄光を求め、それ自身の願望を満足させます。それは、肉や血気の要素と混ざり合っています。ですから、それは良しとされないとき、怒ります。復活した能力には、肉はありません——参照、I テサロニケ 2:4.
- I. 天然の能力は、一時的であり、試練、挫折、反対に耐えることができません。復活した能力は、御父をほめたたえ、御父のみこころを認めます——マタイ 11:20-26. ヨハネ 2:19. 使徒 2:24.
- J. 天然の能力にしたがって仕えている人たちは、人からの褒賞や評価を願います。復活した能力にしたがって仕えている人たちは、キリストを勝ち取ることを願い、

彼に喜ばれようと懸命に努めています——ピリピ 3:8. 創 15:1. ヘブル 11:5-6. II コリント 5:9.

K. 天然の能力は、自分を現すこと、人に知られること、人の前で行なわれることを好みます。復活した能力は、ひそかに事を行ない、「ご自身を隠す神」と一になり、「下に根を張り、上に向かって実を結ぶ」ことを好みます——イザヤ 45:15. 37:31. マタイ 6:4, 6, 17-18.

L. 命から離れた天然の能力と才能は、蛇のようであり、神の民を毒します。命は、はたのようであり、神の民に命を供給します。わたしたちはこの命によって、満ちあふれる神の豊富な属性を、彼のかぐわしい美德を通して、人性において表現する人となります。命はわたしたちを、いばらの中から成長するゆりのようにならせ、また暗い夜に輝く明るい星のようにならせます——参照、出 4:1-9. マタイ 3:16-17.

M. 人が天然の能力を召会の中へともたらそうとするときはいつも、召会の実際が失われます。死と復活を経過したものだけが、召会の中へともたらされ得ます——I コリント 3:16-17.

IV. イスラエルとユダの四十一人の王は、最も高い地位にありましたが、良き地を享受することにおいて注意深くありませんでした。ダビデでさえも、良き地を十分に享受したわけではありませんでした。わたしたちは彼らの事例を自分自身に適用すべきです：

A. 悪い王たちの悪の根は、イスラエルの民の悪の根のように、彼らが生ける水の源泉としての神を捨てて、水をためることのない壊れた水ためとしての異教の偶像に転向したことでした。この二つの悪は彼らを、偶像礼拝という死の水、情欲にふけるという死の水の中におぼれさせました——エレミヤ 2:13.

B. 今日、わたしたちは王であって、あふれるばかりの恵みとあふれるばかりの義の賜物を受けることによって、キリストと共に命の中で王として支配しています（ローマ 5:10, 17）。わたしたちは努めてパウロの模範に従うべきです。彼は、自分はキリストと共に十字架につけられており、もはや自分が生きているのではなく、キリストが自分の中に生きていると宣言することができました（ガラテヤ 2:20）。彼は、イエス・キリストの霊の満ちあふれる供給、すなわち、からだの供給を受けることによって、キリストを生きて、キリストを大きく表現したと言いました（ピリピ 1:19-21 前半）。

C. 復活においてキリストは、三一の神の究極的完成である命を与える霊と成りました（I コリント 15:45 後半）。この神聖な、すべてを含む霊は、わたしたちの霊の中へ入って、わたしたちの再生された霊とミングリングし、神と人、人と神を、ミングリングされた霊の中で一とならせます。この二つの霊は今や、共にミングリングされて一つの実体となっています（6:17. ローマ 8:16）。

D. 今日、霊なる神は、すべてを含む霊、複合の霊、油塗る霊、啓示する霊、手順を

経た三一の神の究極的完成としての究極的に完成された霊です——ピリピ 1:19.

出 30:22-25. I ヨハネ 2:27. I コリント 2:10. 啓 22:17 前半。

- E. 今日の主の回復において、わたしたちはミングリングされた霊、すなわち、わたしたちの霊とミングリングされたその霊に、全き注意を払うべきです。そして、このミングリングされた霊の中で、またこのミングリングされた霊にしたがって、生き、歩き、存在すべきです。それによって、わたしたちは真に命の中で王として支配することができます（ローマ 8:4. 5:10, 17）。このミングリングされた霊は、キリストのからだの開始であって、新エルサレムにおいて究極的に完成します（エペソ 1:17. 2:22. 3:5, 16. 4:23. 5:18. 6:18. 啓 21:10）。

© 2022 *Living Stream Ministry*